

# 人間の経済

第2期 第 **57** 号 (通巻 135号) 2006年8月21日

## 目次

シアトルの酋長、アメリカ合衆国大統領  
に告ぐ(1855年)  
――我々は大地の一部である――

斎藤由紀子 訳

週刊マーケットレター(06年8月14日週号)  
主要マーケット指標  
資源高による景気拡大は続くか

曾我 純

quote of this week/  
富豪の限度―「貧乏人の定理」より―

エーリヒ・ケストナー/斎藤由紀子 訳



# シアトルの酋長、 アメリカ合衆国大統領に告ぐ（1855年） - - 我々は大地の一部である - - \*

斎藤由紀子 訳

(Rede des Häuptlings Seattle an den Präsidenten der Vereinigten Staaten von Amerika im 1855. Olten und Freiburg im Breisgau, 第23版、1992年8-11、17-18、20、25-26、32-33ページ。Zeitschrift für Sozialökonomie 148/2006より重引。)

ワシントンの大酋長が我々の土地を買おうとしているというニュースが流れている。……我々は彼の提案をよく考えたい。なぜなら我々は知っているからだ - - 我々が売らなければ、きっと武器を持った白人がやって来て我々の土地をわがものとするだろう。どうやって天を - - あるいは大地のぬくもりを - - 買ったり売ったりできようか？ こういう考えは我々になじまない。

シアトルの酋長が言うことを、ワシントンの大酋長は信頼している。それは、我々の白い兄弟が、季節は巡ると信じる程度に確かなことである。私の言葉は星のようなもので、地に落ちることはない。この大地のすべてがわが民族には神聖である。きらきら光る高貴なモミも、砂浜も、うっそうとした森の霧も、間伐したところも、ぶんぶん飛ぶ虫も神聖である。……我々は大地の一部であり、大地は我々の一部である。良い香りの花は我々の姉妹、シカ、ウマ、大きなワシは我々の兄弟。岩だらけの高地、みずみずしい草原、ポニーの、そして人のぬくもり、みな家族だ。……大気は赤色人種にとって貴重である。すべてのものが同じ空気を吸っているのであるから - - 動物、樹木、人間。みんなが同じ空気を吸っている。……

白人は我々のやり方を理解しないだろう。土地の一部は、白人にとって他のものと同じである。それは白人がよそ者だからだ。夜やってきて、いつも必要なものを大地から奪っていく。大地は白人の兄弟ではなく敵なのだ。制圧したら、先へと闊歩する。自分の父親の墓はあとに残して顧みない。子孫から大地を盗んで顧みない。母親を、大地を、兄弟を、天を、まるで買ったり略奪したり売ったりするもののように、まるで羊や黄金の珠のように扱う。飢えた欲望は大地をむさぼり食い、後は何も残らぬ砂漠となる。……

大地は我々の母だ。どうして母親を所有できようか？ ……大地に振りかかる災難は、大地の息子にも振りかかる。大地は人間に属するものではない - - 人間が大地に属してい

\*英文原文、場合によれば邦訳も存在すると思われるが、入手しえなかったため独文文献から邦訳した。なお、「酋長」(häuptling)という表現は先住民族に対する差別的・侮蔑的ニュアンスを含む表現として今日使用が控えられているが、歴史的資料と考え、あえて本訳語を使用することとした。

るのだ。そのことを我々は知っている。すべてのものは互いに結びついている。……人間は命の織物を勝ち得なかった。ただその中の1本の繊維にすぎない。貴殿が織物に加える危害は、貴殿自身にも及ぶのだ。……

ひとつ、我々は知っている。白人もいつかきっと気づくだらう - - 私たちの神は同じ神なのだ。貴殿はきっと、神を所有しようとするだろう - - 我々の土地を所有しようとしているように。しかし、それはできない。神は人類の神 - - 赤い人種にも白い人種にも同じだ。この土地は神にとって大切なもの。大地を傷つけることは、大地の創造者を見くびることだ。

## 週刊マーケットレター（06年8月14日週号）

2006年8月13日

曾我 純

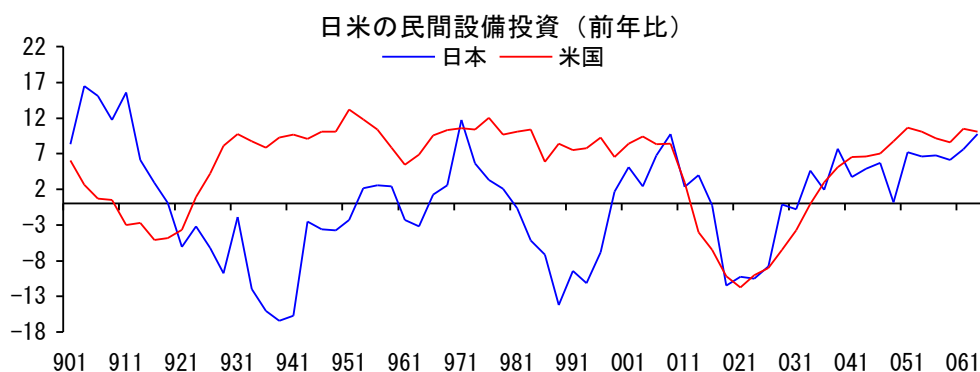
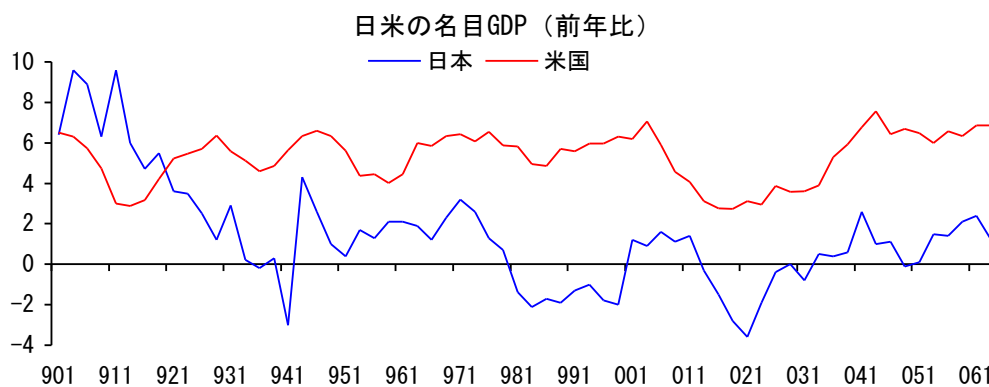
### ■主要マーケット指標

為替レート	8月11日（前週）	1カ月前	3カ月前
円ドル	116.30(114.40)	114.30	110.70
ドルユーロ	1.2720(1.2875)	1.2775	1.2835
ドルポンド	1.8905(1.9085)	1.8465	1.8835
スイスフラン	1.2425(1.2215)	1.2265	1.2125
<b>短期金利（3カ月）</b>			
日本	0.41375(0.41600)	0.39875	0.18125
米国	5.40500(5.49938)	5.50000	5.17000
ユーロ	3.21900(3.20200)	3.07863	2.88000
スイス	1.59000(1.57667)	1.53000	1.41000
<b>長期金利（10年債）</b>			
日本	1.850(1.880)	1.965	1.965
米国	4.97(4.89)	5.10	5.15
英国	4.77(4.72)	4.65	4.74
ドイツ	3.98(3.90)	4.04	4.06
<b>株 式</b>			
日経平均株価	15565.02(15499.18)	15473.82	16862.14
TOPIX	1577.92(1571.70)	1585.85	1711.31
NYダウ	11088.03(11240.35)	11134.77	11500.73
S&P500	1266.74(1279.36)	1272.52	1305.92
ナスダック	2057.71(2085.05)	2128.86	2272.70
FTSE100（英）	5820.1(5889.4)	5857.3	6042.0
DAX（独）	5628.37(5723.03)	5616.04	6054.72
<b>商品市況（先物）</b>			
CRB指数	344.53(350.05)	350.28	365.35
原油（WTI、ドル/バレル）	74.35(74.76)	74.16	73.32
金（ドル/トロイオンス）	633.5(644.0)	641.2	719.8

### ■ 資源高による景気拡大は続くか

週末に発表された4-6月期の『GDP速報』によると、名目で前期比+0.3%と伸び率は2四半期連続で低下し、日本の景気は減速しつつあることが読み取れる。民間最終消費支出は0.6%と前期よりも伸びは高くなり、民間企業設備も3.7%と好調だったが、民間住宅、外需さらに公的需要の減少が成長の足を引っ張った。

民間企業設備は前期を9四半期連続で上回り、これだけで4-6月期のGDPを0.6%引き上げ、設備投資が景気を牽引している。前年比では03年4-6月期以降、13四半期連続のプラスとなり、プラス期間は前回のIT景気の約2倍である。民間企業設備の好調がこれだけ長く続くのは80年代後半以降のバブル期以来だが、02年1-3月期に景気が底打ちしてから最高の経済成長率は04年1-3月期の2.6%であり、景気回復を感じ取ることができるほ

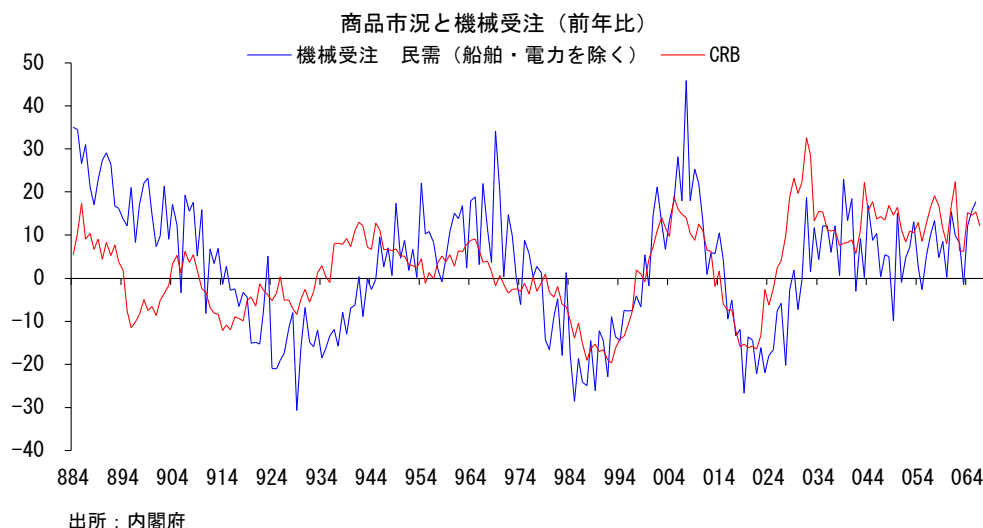


出所：内閣府、BEA

ど力強いものではない。それは設備投資が拡大を続けても、設備投資部門の賃上げが微増にとどまり、消費財部門を刺激するほどの影響力を發揮することができなかつたからである。企業部門は潤っているが、家計部門は十分な購買力を持つことができず、財布の紐を緩めるゆとりはないのだ。最終需要の57%を占める家計部門が回復しなければ、いつまでも回復しているのかどうかかわからないような状態が続くだろう。02年1-3月期の「景気の谷」から06年4-6月期まで、名目GDPは4.1%（年率0.9%）しか伸びていないことをみても、今回の景気回復を実感できないことを裏付けている。民間最終消費支出も年率0.9%と低調な半面、民間企業設備は年率5.1%伸びており、名目GDPの伸びの4.1%のうち8割弱は民間企業設備の寄与となっている。

4－6月期の民間企業設備は前年比9.7%と今回の景気拡大過程で最高の伸びとなり、ITバブルの絶頂期である00年10-12月期に肩を並べた。90年代以降の伸びとしては、数えることができるほどの高い伸びを示していることは、今後、このような伸びを維持することが難しくなりつつあるといいだろう。GDPに占める民間企業設備の比率は06年4－6月期、15.9%と景気の谷である02年1－3月期から2.5ポイント上昇した。米国の同10.4%に比較すると、日本が5.5ポイントも高く、米国よりも日本経済のほうが、変動の激しい民間企業設備の影響を被りやすく、経済構造は不安定だといえる。

中国のWTO加盟（01年12月）を契機に、原油をはじめとする原料・素材価格の高騰が世界のモノの流れを増大させ、資源の生産拡大やそれに伴う資本設備の需要を著しく増やした。原油高が代替エネルギーの研究・開発を促すだけでなく、省エネ等、エネルギー効率を高める研究にも拍車が掛かり、そうした分野からも膨大な機械設備の需要が発生している



はずだ。

代表的な商品先物指数であるCRBと機械受注の関係を見ると、両者の相関関係が強いことが見て取れる。CRB指数の前年比増減率は日本の景気の谷（02年1月）（ちなみに米国の景気の谷は01年11月）で最低（16.4%減）を付け、その後、プラスの伸びを持続している。これほど長い期間、CRBが高い伸びを経験したことはなく、資源価格の高騰が世界景気を刺激し、世界的にそれに伴う特需が生まれ、主要国はその恩恵を受けているのである。

6月の『機械受注』によれば、民需（船舶・電力を除く）は前年比17.7%と3ヵ月連続の2桁増と予想外に伸びており、資源の高騰がさまざまな機械需要を喚起している様子が窺える。官公需は5.2%のプラスにとどまったが、外需が40.0%も伸びたため、総受注額は23.5%増加した。「7－9月期の見通し」によると、民需（船舶・電力を除く）は16.5%と4－6月期よりも1.1ポイント高くなる見通しである。機種別では「産業機械」が25.0%増加し、金額で

は1.6%しか増えない「電子・通信機械」を上回る計画である。原動機、重電機、道路車両等も高い伸びが予想されており、資源高に起因する需要が乗数作用を働かせ、次々に派生需要を作り出しているようである。

7月の米小売売上高（自動車・同部品を除く）は前月比1.0%、前年比では9.2%と好調だ。6月の財の輸入額は前年比13.5%増と引き続き米国の需要は強く、FRBが利上げを休止するほど、景気は減速していないのではないか。4－6月期の労働生産性は前年比2.7%と前期と同じだったが、報酬が5.9%と労働生産性を大幅に上回ったことから、単位労働コストは3.1%に上昇した。04年の単位労働コストは前年比0.7%であったが、05年には2.1%増となり、単位労働コストの上昇傾向はあきらかになってきた。FRBは資源高による物価上昇に加え、コストプッシュによるインフレ圧力にも警戒する必要がある。4－6月期の米名目GDPは前年比6.9%と依然高く、なかでも民間設備投資は10.1%と2四半期連続の2桁増となり、米国経済も資源高に基づく特需に沸いている分野があるようだ。

資源高により世界的にインフレが強まり、世界の需要が後退していき、景気が腰折れするのか、資源高が需要を生み出すという好循環が途切れることなく、世界景気がまだ拡大を続けることが可能なかどうかという微妙な時期に差し掛かっているように思う。



quote of this week

富豪の限度 - 「貧乏人の定理」より -

彼はただ贅沢を楽しむためだけに

黄金のビーフステーキを焼かせることもできる！

それはそうだが

忘れてはならない

金製のビーフステーキは

食べられないってことを。

( エーリヒ・ケストナー/斎藤由紀子 訳  
Erich Kästner, Kurz und bündig )

ゲゼル研究会では第二期「人間の経済」誌の原稿を募集しています。

ゲゼル研究会では会誌、「人間の経済」を刊行してまいりましたが、会員の各地に叢生する地域通貨の動きへの関与等により、刊行継続の体制がとれず、1年ほど休刊のやむなきに至っております。

しかし、社会経済状況の変化や多様化する各地の貨幣改革の展開を見るに、時宜を得た会員の諸研究を世に問う必要性を痛感しているところです。

また、各地からの問い合わせ、情報提供の依頼も多く、会としての系統的な情報の提供、焦眉の課題に関する研究成果の迅速な公開の必要性も強く感じてきたところです。

今般、体勢を立て直し、会誌「人間の経済」再開（第二期創刊）に取り組むこととなりました。

基本的な会誌の性格は第一期と変わるものではありません。

理論的な研究から各地の取り組みの現状、そのナマの声まで、多様なテーマの論考を掲載していきたいと考えております。

広く論考を求めていますので、諸姉諸兄のご支援、ご協力をお願いいたします。

第二期、「人間の経済」、簡易印刷版、及びHPでのPDF版提供

不定期刊

投稿資格 特に設けず

投稿 常時受け付け

投稿論文の著作権は著者に帰属

原稿料はありません

ご連絡は [info@grsj.org](mailto:info@grsj.org) まで。

人間の経済 第二期 第57号(通巻135号)  
2006年8月21日刊

---

編集・発行 ゲゼル研究会  
221-0021 横浜市神奈川区子安通3-321 森野榮一気付  
Gesell Research Society Japan  
<http://grsj.org/>  
[info@grsj.org](mailto:info@grsj.org)

**Gesell Research Society Japan all rights reserved 許可無く複製・再配布を禁ず**

---

頒価 1ワット



ゲゼル研究会